

<ユネスコ創造都市ネットワーク全州市派遣事業に参加して>



【派遣作家】笠松 加葉（象嵌作家） 金沢市出身
（略 歴）

2004年 金沢美術工芸大学美術工芸学部工芸科卒業

2006年 金沢美術工芸大学美術工芸研究科工芸専攻 修士課程修了

2015年 金沢卯辰山工芸工房 修了

- ・金沢市米泉町に工房を構え制作活動中
- ・全国の百貨店やギャラリーで実演、作品の展示販売

韓国へ行く前は不安だらけでしたが、全州市役所の方々、ビビンバ祭のスタッフの方々、そして金沢市役所の向様、弥村様、坂本様の多大なるご支援により、滞在中何一つ不自由なく過ごさせていただくことが出来ました。心より感謝申し上げます。

金沢市内の方でさえ知らない方も多い加賀象嵌という希少伝統工芸に、果たしてどれほど韓国の方が興味を示してくださるだろうかと心配でしたが、蓋を開けてみるとワークショップには常に空きを待つ方が出る程関心を持って頂いておりました。体験を希望される方が多く、実演をする時間が大幅に削られてしまった事は反省点の一つでもあります。言葉が通じないという事もあり、作家一人で4日間の会期を無駄なく回すにはどうしても限界がありました。

全州市の方がツアー等を用意してくださっておりましたが、私自身は象嵌の実演と体験を使命として感じていた点もあり、親善交流としてそういったイベントに参加するべきか否か、とても判断に迷う事が多々ございました。こういった点も、予定より実演時間が減ってしまった要因かと思えます。

生まれも育ちも金沢市であり、その金沢市の希少伝統工芸を職としている身として、金沢市の工芸に対する取り組みや、ここ数年の金沢の変貌に関して常日頃様々な想いを馳せておりましたが、そういった想いを言葉にする事はありませんでした。今回全州市の方々とお話しさせて頂く中で、そういった想いにも触れる機会があり、自身の考えを言葉にする事ができた事は私にとって大変有意義な経験となりました。

全州市の工芸に対して抱える問題は、金沢市と非常に似ているように感じました。いくら種が良くとも、土壌と水が良くなければ実は育ちません。工芸作家として技術を磨く事は勿論ですが、鑑賞者や購入使用者に対しても何らかの行動を起こさねば、金沢市の伝統工芸の未来は明るくならないのだということを改めて強く感じております。

韓国全州市へ行き全州市長や市民の方の話を伺うことで、生まれ育った金沢市のことをより深く考える機会を与えて頂きました。この機会に得た想いを無駄にせぬ様、今後の活動に取り組んで参りたいと思えます。

貴重な経験を得る場を与えて頂き、誠に有難うございました。